

The 15th Asia Pacific Hernia Society (APHS) Conference 学会参加報告

新松戸中央総合病院外科 三田一仁

この度、日本ヘルニア学会「APHS Scholarship 2019」に選抜いただき、インドネシア・バリで開催されました第 15 回 APHS に参加させていただきました。APHS は初めての参加でした。リゾート地、バリでの開催ということで、運営関係は比較的緩いのでは、と思っていましたが、国際学会としてはかなりしっかりと運営開催されており驚きました。開催場所のヌサドゥアコンベンションセンターはセキュリティの行き届いた地区内にあり、落ち着いた雰囲気でした。オープニングセレモニーではインドネシア外科学会の威信をかけた演出などを堪能しました。

Live Surgery では中国での TEP や Lichtenstein 法を流していましたが、特段目新しい手技といったわけではなく、東アジアや東南アジア圏の外科医が熱心に観ていた印象でした。また癒痕ヘルニアのセッションが目立ち、癒痕ヘルニアへの関心が伺えました。ソケイヘルニアに関しては日本の手術レベルを考えると、もっと招待講演などに日本人が登壇しても良いのではと思えました。

自身の発表に関しては、ポスター発表でしたが、デジタルポスターが 3 台しか設置されておらず、なかなかディスカッションの場が作りにくい環境でした。抗血栓療法施行中の TAPP 症例に関して、LCS を用いて安全な手術を行える、更には電気メスのみでも安全に行えるという発表でしたが、地元インドネシアの外科医には驚きとともに興味を持っていただきました。韓国や中国、また欧米の外科医にどのような印象を持たれるか興味がありましたが残念ながらディスカッション出来ず仕舞いでした。

最後に APHS Scholarship に選んでいただき、貴重な経験を積ませていただき日本ヘルニア学会、関係各位に深く感謝いたします。今後も微力ながら国内外の学会発表などを通じて尽力してまいりたいと思います。